

## News Release

## 日本工営 生成 AI を活用した「自律型 AI」を開発

-自律的に AI を連携させ、複雑なタスクを自動化-

ID&E ホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表執行役社長：新屋浩明）傘下の日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：金井晴彦、以下「日本工営」）は、業務効率化や高度化を目的として、生成 AI（生成型人工知能）を用いた自律型 AI を開発し、Web システムやアプリケーションを通じて社会実装を推進します。

生成 AI の技術は、生産性や付加価値の向上等を通じて大きなビジネス機会を引き出すとともに、様々な社会課題の解決に資することが期待されています。

現在、日本工営では業務効率化を目的に建設コンサルタント特化型のチャット型アプリケーションを開発し、自社内で活用しています。しかしこのチャット型アプリケーションは与えられたタスクに対してのみ動作する特化型の AI であるため、文書作成自体はするものの、人間が普段行っているような複数のタスクを関連付け、それらを組み合わせるような複雑なタスクに対しては性能が不十分です。単なる情報収集の手段ではなく、正確性や明確さに加え文法やスタイルといった高い品質が求められる文書作成では、チャット型アプリケーション以外の情報源（インターネット上にある情報や別途資料）を加味し、それらを取りまとめた上で、レビューや修正をするという複雑なタスクが必要です。AI を使用しても人間が介在する必要があり、業務効率化に向けて更なる改善が期待されていました。

このような複雑なタスクに対する解決策として自律型 AI があります。自律型 AI は、様々なタスクに対して人間の介在を極力なくし、AI 自身がタスクに応じて必要な AI 機能を選定し行動することが可能です。

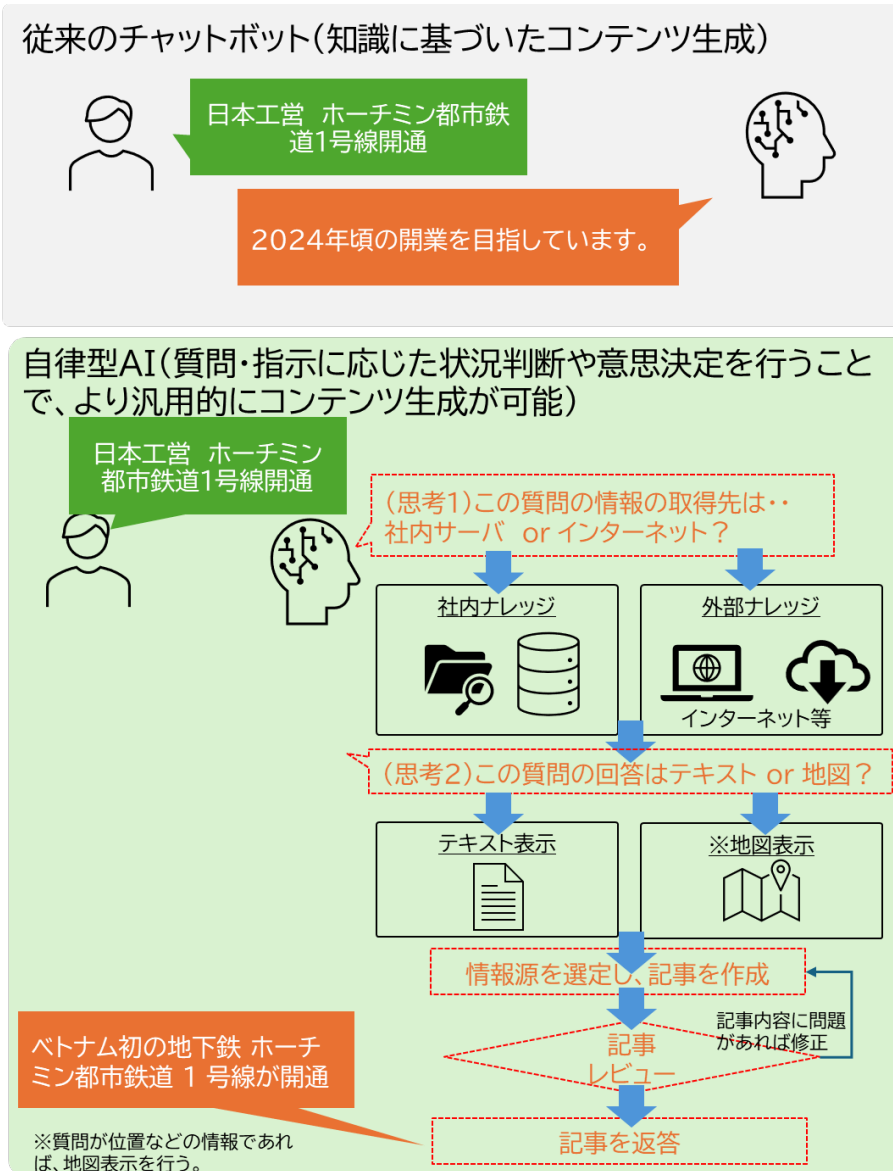
日本工営では自律型 AI を開発し、以下のような複雑なタスクに対して適用を進めています。

- ✓ 自律的な文書のブラッシュアップ  
文書を作成する AI と、文書をレビューする AI を組み合わせ、相互にコミュニケーションをとりながら文書を練り上げていくことで、より高品質な成果報告書などを作成。
- ✓ 既定の手順に従った文章読解  
単純なチャット型アプリケーションではなく、必要な資料を手順に沿って調査し、それに基づいて回答する AI。例えば「共通仕様」に基づいた「特記仕様」の読解といった、対象資料に読解する手順が定められた場合に活用。
- ✓ 曖昧な作業指示による文書作成  
曖昧な指示に基づき、作業内容を細分化する AI、それに基づいた計画を立案する AI、情報収集する AI、目標設定する AI、文書作成する AI がそれぞれ連携し、文書などを作成。

自律型 AI は分野を問わず様々なタスクに応用、活用でき、従来の作業を大幅に効率化できます。上記のタスク事例を応用し、市場調査やソーシャルリスニングを目的とした自律型 AI のプロトタイプを構築しています。

●自律型 AI による文書生成例、活用事例

自律型 AI 動作イメージ例



プロンプト「日本工営 ホーチミン都市鉄道 1 号線開通」に対する従来のチャットボットと自律型 AI の動作イメージ

## 日本工営に関する Web 市場調査例



**日本工営都市空間株式会社と都市計画の未来**

日本工営都市空間株式会社は、都市再生と都市計画において重要な役割を果たしています。最近の組織再編により、国内外での影響力をさらに拡大しています。

[View](#) [Delete](#) 2024/09/13

[都市計画](#)



**流域治水の推進とその重要性**

日本工営株式会社は、いわき市と協力し、流域治水の推進に努めています。流域治水は洪水や浸水被害を防ぐための包括的な取り組みであり、地域社会の安全・安心な暮らしの実現に寄与しています。

[View](#) [Delete](#) 2024/09/13

[流域治水](#)



**日本工営が推進する生物多様性保全とデジタルトランスフォーメーションの融合**

日本工営株式会社は、生物多様性保全とデジタルトランスフォーメーションを融合した革新的な取り組みを行っています。これにより、自然環境の保全と社会資本の充実が図られています。

[View](#) [Delete](#) 2024/08/28

[生物](#)



**河川環境の保全と持続可能な未来へ向けて**

日本工営は河川環境の保全に取り組み、自然環境調査や保全対策を実施しています。

[View](#) [Delete](#) 2024/08/28

[河川環境](#)



**最新の津波対策と技術革新：数値解析からVRシミュレーションまで**

津波対策の技術が進化し、数値解析やVRシミュレーションを用いた最新の防災方法が開発されています。日本工営株式会社の取り組みが防災計画の効果を高め、災害に対する迅速な対応を可能にしています。

[View](#) [Delete](#) 2024/08/09

[津波](#)



**生成AIの活用状況**  
**生成AIの活用が進む日本の建設業界**

【活用】 社内メールなし 7.8%	【活用】 社内メールあり 9.1%
【活用】 業務での活用を検討 52.0%	【活用】 個人での活用を検討 31.2%
【活用】 AIを積極的に活用 27.8%	【活用】 AIを活用しない 27.8%

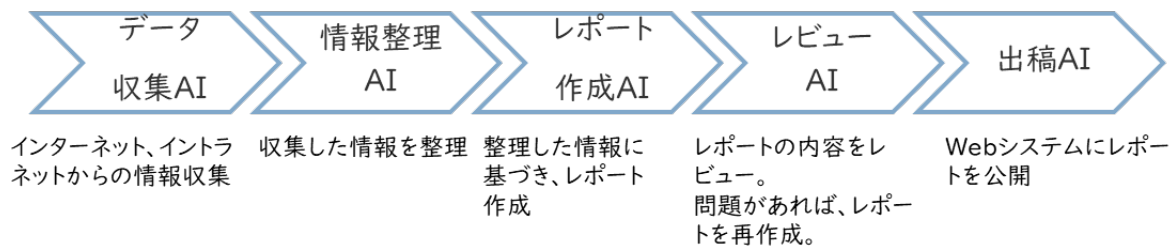
**生成AIを活用・検討 61.1%**

日本の建設業界では、生成AIの活用が進んでおり、日本工営や岩田地崎建設が入札や基準読解のサポートに生成AIを導入しています。これにより、業務効率化と生産性向上が期待されています。

[View](#) [Delete](#) 2024/08/09

[生成AIの活用](#)

### 本ケースにおける自律型AIの機能



### 日本工営に関する Web 市場調査の活用事例

ID & E グループおよび日本工営ではデジタル・トランスフォーメーションを積極的に推進し、今後も社内の生産性を革新することで、新たな価値を創造してまいります。

— 本件に関するお問い合わせ先 —

ID&E ホールディングス株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室  
TEL :03-5276-2454 Email : c-com@n-koei.co.jp ホームページ : <https://www.id-and-e-hd.co.jp/>